

第 64 回日経・経済図書文化賞決まる¹

2021 年 11 月 3 日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の 2021 年度・第 64 回「日経・経済図書文化賞」受賞図書は、次のように決まりました。

《受賞図書》

賞（賞金 100 万円および副賞として記念品を著者へ、賞牌を出版社へ贈呈）

『子育て支援の経済学』

山口 慎太郎著（日本評論社）

『競争政策の経済学』

大橋 弘著（日経 B P 日本経済新聞出版）

『大航海時代の海域アジアと琉球』

中島 楽章著（思文閣出版）

『バブルの経済理論』

櫻川 昌哉著（日経 B P 日本経済新聞出版）

『最後通牒ゲームの謎』

小林 佳世子著（日本評論社）



総 評

日本の諸課題 考察迫る

審査委員長／立正大学長 吉川 洋

新型コロナウイルス禍の長期化にかかわらず、優れた書物の多い年だった。とくに日本が抱える諸課題について経済学の視点で対策の方向性を示す良書が目立った。

『子育て支援の経済学』（山口慎太郎著）は、日本の将来にとり最大の課題ともいえる少子化問題について、著者自身の貢献も含めた研究成果を紹介したものである。少子化対策では現金給付、保育所の拡充整備、育児休業など様々な政策が考えられるが、どのような政策がどれほど有効なのか。それはしっかりとエビデンス（証拠）に基づいて評価され、設計されなければならない。その要点を明快に説明しており、多くの審査委員が

¹ 「総評」・各受賞作品「書評」は、2021 年 11 月 3 日付日本経済新聞より許諾を得て転用したものです。

ら高い評価を得た。

『競争政策の経済学』(大橋弘著)は、競争政策研究の第一人者による一級の研究書である。競争政策の基となる産業組織論は過去数十年で大きく変わった。一方、「GAF(A(グーグル、アマゾン・ドット・コム、フェイスブック、アップル))」に代表されるデジタルプラットフォーム産業などでの新しいタイプの寡占化への懸念が欧米で広まり、その影響はわが国にも及ぶ。携帯電話市場、電力産業の発送電分離、再生エネルギー買い取り制度など喫緊の課題に指針を与えると評価された。

『大航海時代の海域アジアと琉球』(中島楽章著)は、東アジア・東南アジアの中継貿易のハブとして栄えた古琉球(12～17世紀)の14世紀以降の歴史に、これまで研究が及ばなかったポルトガル語などの資料、地図による考察を加えて新しい地平を開いた。琉球貿易に明朝との朝貢貿易を超える規模と広がりがあったことを示して圧倒的な迫力があると評価された。

『バブルの経済理論』(櫻川昌哉著)は、マクロ経済理論から日米はじめ各国のケーススタディー、21世紀に入ってから長期停滞論まで「バブル」について論じた著者渾身(こんしん)の力作である。細部では専門家から問題点が指摘されるかもしれないが、「利子率が成長率を下回るときバブルは発生する」との基本テーゼのもと、「国債バブル」まで一気に読ませる。日本経済が抱える問題について、新たな切り口から考察を迫る。

『最後通牒(つうちょう)ゲームの謎』(小林佳世子著)は、ゲーム理論が示す通りには実際は人々が行動していない「謎」について、初心者にも分かりやすく解き明かした啓蒙書だ。人間は経済学者が頭の中で「合理的」と考えるよりはるかに複雑な存在であることを、多くの学問分野での研究が明らかにしてきた。本書はその全体像を伝える。

受賞作以外にも多くの書物が審査委員の評価を得た。

『「副業」の研究』(川上淳之著)は、拡大しつつある副業を多角的に研究した書物として評価されたが、実態は多様であるというその先の政策提言を望む声があった。

『戦前日本のユニバーサルバンク』(粕谷誠著)は、様々な資料に基づく労作だが、現代の金融市場を考える上での意味合いが必ずしも明らかでないとの指摘があった。

『温泉の経済史』(高柳友彦著)は、地域共有資源の管理など現代の問題にもつながるユニークな経済史として評価されたが、全体としてのメッセージが明確でないという意見があり選外となった。

『近代中国財政史』(佐藤淳平著)は、清朝末期から中華民国初期までの財政制度の変化を詳細に分析しており今後の研究の礎になると評価されたが、金融・通貨制度も含めた同時期の経済全体の動きとの関連についてさらなる考察を求める声があった。

『なぜ「よそ者」とつながることが最強なのか』(戸堂康之著)は、よそ者につながることがグローバル化だと喝破した啓蒙書だが、先進国内で広がる格差への対応の議論で物足りなさが指摘された。

『デジタル化する新興国』(伊藤亜聖著)は、デジタル化で新興国に抜かれつつある日本に警鐘を鳴らす優れた啓蒙書との評価を得たが、経済学とのかかわりの点でどうかとの声があり見送られた。

◇審査対象

2020年7月1日から21年6月30日(外国語著書は20年1~12月)の間に出版された日本語または日本人による外国語で書かれた著作で、本賞に参加を得たもの(一般の人が自由に購入できる図書に限る)。

◇審査委員

(委員長) 吉川 洋 立正大学長

(委員) 八代尚宏 昭和女子大学副学長・特命教授

斎藤 修 一橋大学名誉教授

本多佑三 大阪学院大学教授

杉原 薫 総合地球環境学研究所特任教授

伊藤元重 学習院大学教授

井堀利宏 政策研究大学院大学特別教授

徳賀芳弘 京都先端科学大学教授

深尾京司 日本貿易振興機構アジア経済研究所長・一橋大学特任教授

岡崎哲二 東京大学教授

福田慎一 東京大学教授

翁 百合 日本総合研究所理事長

沼上 幹 一橋大学教授

大竹文雄 大阪大学特任教授

細野 薫 学習院大学教授

松井彰彦 東京大学教授

神田さやこ 慶應義塾大学教授

藤井彰夫 日本経済新聞社論説委員長

岩田一政 日本経済研究センター理事長